

21年度から一転、6割が前年度比減少

22年度プレカットランキング

上位3強は加工増加続く

本紙が集計した2022年度木造軸組プレカットの加工実績で、回答社の約6割が前年度実績を下回ったことが分かった。21年度集計では約7割が20年度加工量を上回っていたが、22年度新設住宅着工が戸数と床面積とともに減少したことが響いた。ただ、ランキング上位10社のうち半数は前年度実績から増加し、特に上位3強はさらに実績を伸ばしている。

ランキング（別表）（県）が受注制限を断行。同秋に構造用集材の価格が急騰する86社の上位36社を抜粋したのだが、全回答で前年度実績を下回ったのは63%に達した。

21年春からのウッドショックで木材不足が顕著となり、同年4月からポラテック（埼玉）

構造用集材などは22年5〜6月から下落に転じた。

22年度新設住宅着工

2022年度軸組プレカット工場 実績一覧

順位	22年度	昨年度	プレカット企業名（決算月）	単位：前年比%	
				22年度年間加工実績（構造材）坪	前年比
1	1	1	ポラテック（3月）	1,333.846	106.4
2	2	2	テクノウッドワークス（7月）	592.000	103.5
3	3	3	中国木材（6月）	483.100	106.0
4	4	4	ヤマエグループホールディングス（3月）	412.840	97.0
5	5	5	江間忠ホールディングス（3月）	218.600	96.0
6	9	9	マツシマ林工グループ（8月）	214.233	119.5
7	6	6	ナイスプレカット（3月）	210.000	105.0
8	8	8	宮本工業（9月）	178.000	93.0
9	7	7	OCHIホールディングス（3月）	175.000	95.0
10	10	10	シー・エス・ランパー（5月）	166.816	95.9
11	11	11	ランベックスジャパン（6月）	158.600	98.4
12	14	14	柴産業	147.600	112.0
13	13	13	タツミグループ（8月）	138.589.8	94.7
14	18	18	三ツツ（6月）	137.700	129.0
15	12	12	腕庄林業（12月）	127.000	88.0
16	15	15	ナカザワ建販	119.418	98.0
17	19	19	山西（3月）	111.454	104.4
18	16	16	佐藤木材工業（3月）	111.000	92.7
19	17	17	大森木材（3月）	109.017	90.8
20	20	20	恒栄マツモトグループ（12月）	104.000	99.0
21	21	21	アイダ設計（3月）	103,436.62	107.0
22	71	71	矢橋林業（3月）	101.508	—
23	26	26	スカイ（3月）	90.000	105.0
24	24	24	ゼネラルリブテック（3月）	83.500	95.0
25	22	22	イタヤ（12月）	83.200	89.5
26	23	23	セブン工業（3月）	82.516	92.8
27	27	27	福栄グループ（6月）	79.810	—
28	30	30	長谷川萬治商店（3月）	78.509	112.0
29	25	25	大三商行（3月）	76.384	88.0
30	29	29	材惣木材	67.352	94.0
31	36	36	大日本木材防腐（3月）	67.172	112.0
32	30	30	ウッディーコイケ	66.500	95.0
33	28	28	マツモト（3月）	66.237	92.8
34	32	32	マルダイ（2月）	63.282	91.0
35	33	33	昭和木材（9月）	62.760	96.0
36	35	35	村上木材（11月）	60.517	93.7

注：（ ）は決算月。中国木材、テクノウッドワークス、恒栄マツモトグループの実績は暦年。テクノウッドワークス、ヤマエグループHD、江間忠HD、マツシマ林工グループ、OCHI・HD、タツミグループ、矢橋林業はグループ工場合算

は戸数で前年度比0.6%減、床面積で同3.5%減で、とりわけ持ち家戸数は11.8%減とマイナス幅が目立った。プレカット需要は注文や分譲向けで不振となり、年度後半かめ、集合住宅や非住宅が悪化した。

一方、22年度は戸建てを補完するた

の営業を強化した工場も目立った。非住宅向けは、大手を中心に特殊加工やCAD対応力で受注に努め、年度中に新規加工機の導入を進めたり、建て方で実績を重ねたりして今後の成長分野として捉え

個別企業の動向としては、最大手のポラテック（埼玉県）は加工実績を前年度比6%ほど増加。先鞭をつけた非住宅専門営業で低層木造需要を掘り起こし、今ではリピート需要も獲得している。

テクノウッドワークス（栃木県）は主に非住宅向けとなる特殊加工機を拡充しており、機械加工と手加工を融通して手間が掛かる加工を積極的に取り込んでいる。

中国木材（広島県）は25年4月稼働予定で、茨城県鹿嶋市内にプレカット工場を設けることを発表した。

また、上位10社で加工実績の伸びが最大だったマツシマ林工（徳島県）グループは、鶴居商店（愛媛県）のグループ入りや工場ラインの更新で前年度比増加へつなげている。（回答社ランキングは21日付11面に掲載）

過去最高の売上高に

加工能力は月間5000坪増

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）のプレカット事業は、月間加工能力（構

造材）が19万9500坪（前年比5000坪増）と圧倒的だ。20

22年度加工実績は133万3846坪（同6・4%増）で、2年

続きの前年割れから再び増加に転じた。

同社の加工工場数は8億9300万円（前

期比20・2%増）と2月に坂東工場で2ライ

ンを更新し、月間加工能力が5000坪増加

増えたほか、木材単価に役立つ。

また、同社は非住宅分野の受注に十数年前から取り組んでおり、非住宅営業専門の「非住宅推進部」を設立し、単発だった散発的だ

て5年目となった。22年度の非住宅加工（ア

パート含まず）は8万8209坪（前年度比

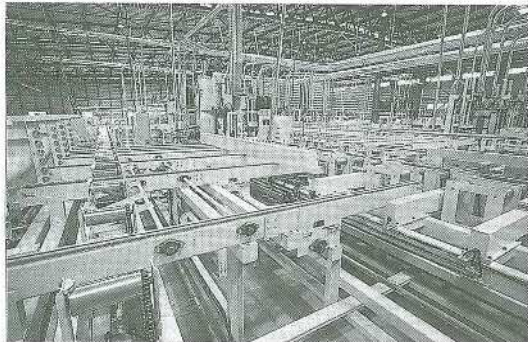
30・1%増）と3割増

規及びリピート需要を獲得している。

今後、3階建てまでの低層需要（老健施設や商業施設等）を開拓する方針で、市場自体も拡大は

期待感を寄せている。

獲得している。



月間構造材加工量が5万坪前後の坂東工場